

令和5年度 第1回高知市食育推進会議 議事録

日時：令和5年7月6日（火）18：30～20：30

場所：総合あんしんセンター3階 大会議室

1 開会（司会：健康増進課 課長補佐）

2 自己紹介

3 議事

（1）令和4年度主要取組報告，令和5年度主要取組予定について

資料(p4～25)を用いて事務局が説明。

<事務局説明>

- ・令和4年度の取組報告（p4～14）。

令和4年度は，コロナの状況下での取組方法の工夫ができるようになり，概ね計画どおりに実施できたが，コロナの感染拡大の時期には一部中止になった取組もあった。

- ・令和5年度の取組予定（p15～25）

様々な取組が緩和され，少しずつコロナ前の取組に近づいた計画となっている。コロナの感染対策も考慮しながら料理教室や体験活動，イベントなどを体験型の取組を再開して実施予定。

【質疑応答】

<渡邊会長>

ただいま，事務局から「令和4年度主要取組報告，令和5年度主要取組予定について」説明がありました。ご質問等はございませんでしょうか。ご意見につきましては（2）の議題②総括の中で重点的にお伺いします。

※質問なし。

（2）高知市食育推進計画について

資料(p26～27)，概要版を用いて，国の第4次食育推進基本計画と高知市食育推進計画の経過について事務局が説明。

<事務局説明>

第4次食育推進基本計画の基本的な方針（重点事項）

- ・生涯を通じた心身の健康を支える食育の推進として「国民の健康の視点」
- ・持続可能な食を支える食育の推進として「社会・環境・文化の視点」
- ・横断的な重点事項として「新たな日常」とデジタル化に対応した食育の視点
- ・そしてSDGsの観点から総合的に推進

国のこの計画は令和2年度，コロナの感染拡大の始まりの頃に作成されており「新たな日常」への対応が重要視された時期であるため，今年度策定する高知市の第4次計画において，新たな日常に対しては重要視はせず，国の重点事項の中の「健康」の視点と「社会・環境・文化」の視点，それにデジタル化やSDGsの観点を意識して検討していくことを考えている。

高知市では平成21年3月に食育推進計画を策定。

基本理念を「食とひとがつながり輝くまち」として、「えらぶ」「はぐくむ」「つなぐ」という3つの視点で1次計画から3次計画まで取り組んできた。

計画の特徴として、1次計画では「市民への食育の周知・啓発」、2次計画では「周知から実践へ」、3次計画では「関係者の連携・協働」をそれぞれテーマとして取り組んできている。

〈概要版にて、第3次高知市食育推進計画の説明〉

3次計画策定時の高知市の現状として、小中学生の実践は進んできた一方で、朝食の摂取やバランスよく食べることに對し、20・30代に課題が多く、小中学生は多様化する環境に配慮した食育が必要とし、生涯を通じた取組となるように関係者の協働で食育を推進することとした。

食育推進のための具体的な取組について、「健康なところと身体のための食育」と「豊かな食を実現するための食育」の2つを柱とし、全部で10項目の取組の方針をたてて取り組んできた。食育推進のために「えらぶ」「はぐくむ」「つなぐ」3つの視点で整理した11項目の目標について指標に對する目標値を立てて取り組んできている。

【質疑応答】

〈渡邊会長〉

ただいま、事務局から国の第4次食育推進計画、高知市食育推進計画の第1次から第3次の経過と第4次にむけた流れについて説明がありましたが、ご質問はありませんでしょうか。

※質問なし。

① 食育アンケート中間報告について

資料(p28~30)、概要版を用いて事務局が説明。

〈事務局説明〉

6月末までの回収率は、幼児が60.4%、児童91.2%、生徒83.6%、成人35.6%

中間報告として6月29日現在で集計できているものを記載。

成人は678件(現在回収分の76.2%)、幼児は340件(96.6%)、児童・生徒については回収分すべてのデータを単純集計したもの。

今回は、目標値に設定しているものについて中間報告する。

中間報告値は資料p29~30参照。

【質疑応答】

〈渡邊会長〉

ただいま、令和5年度高知市食育に関するアンケート調査の中間報告等について説明がありましたが、ご質問はございませんでしょうか。

現在、成人のアンケートは集計が途中とのことで若干数値が増減するかとは思いますが、コロナによる生活の変化があった中でもある一定改善のみられるものもあったかと思えます。

特に災害への食の備えなどは、目標に達していませんが改善してきています。一方で高齢者の共食については感染予防の観点からなかなか実施できなかった背景もあったかと思えます。具体的に取組んだことにつきましては②の総括の中に出てくるかと思えますので次に進みたいと思えます。

② 第3次食育推進計画総括について

(1) 健康なところと身体のための食育の6つの項目について

資料(p31～36), 概要版を用いて事務局が説明。

<事務局説明>

第3次食育推進計画の総括として、具体的な取組ごとに5年間の取組を説明。

概要版3ページの下半分にあります食育推進のための10の具体的な取組の緑色で示している部分

(1) 健康なところと身体のための食育にある6つの項目について

資料 p31 ①基本的な食習慣を身につけるための取組は、子どものころからの規則正しい生活習慣を身につけるために、朝ごはんの大切さ、栄養バランスの基本である「主食」「主菜」「副菜」を組み合わせた食事の啓発について、幼児、小中学生、若い世代を中心に啓発すること、家庭環境が多様化する中で共食することが健康的な食習慣の理解と実践につながることから共食の機会づくりなどをライフスタイルに配慮して取り組むこととしてきた。

取組状況は、幼児へは母子保健事業や園、学校での取組や地域では若い世代を意識してホームページでの啓発や保健所の学生実習の場を活用した啓発などの取組を実施した。

評価指標では、朝食摂取は幼児・小中学生はある一定の改善がみられたものの、若い世代の朝食摂取の改善はみられていない。

また、主食・主菜・副菜とバランスよく食べることは、実践につながりにくく、物価高騰による経済的な背景も考慮した啓発が必要。

総括にあるとおり、様々な活動がコロナの影響で体験型での実施が難しく、実施方法を変更した啓発活動や、日常の保育・学校の生活の中でお便りや食の指導において、朝食の大切さや「主食」「主菜」「副菜を組み合わせた食事」の啓発を行った。成人分野では健康講座やいきいき健康チャレンジなどで、食に関する意識づけも行うこと、食のボランティアであるヘルスメイトの活動は、料理教室などではできない中でも訪問活動を中心に行い、栄養バランスや朝ごはんの大切さの啓発に取り組んだ。

共食の機会づくりについてはコロナ感染症の影響で実施が難しい状況だった。

課題としては、20歳代30歳代の若い世代や子育て世代をターゲットに朝食の大切さやバランスよく食べることの啓発の強化、若い世代につながる小中学生の時期からの生活習慣の基本としての朝食の大切さの啓発、コロナの影響で実施できていなかった共食の大切さの啓発や機会づくりといったことがあげられる。

資料 p32②生活習慣病を予防するための取組について、生活習慣病の予防には、若いころからの健康的な食への意識を高め、生活習慣病発症・重度化予防のために減塩、適正飲酒、バランスよく食べる「主食」「主菜」「副菜」の組み合わせや野菜の摂取、ゆっくりよく噛んで食べることの大切さなどの啓発を行うとともに、関係機関との協働により健康づくりや生活習慣の改善に取り組める環境づくりを行うこととしてきた。

取組状況は、生活習慣病の発症リスクのある妊娠期をはじめ、学校での食に関する指導、お便りでの保護者への啓発、成人では女性健診の若い世代をはじめ成人全体に啓発活動を行うとともに、生活習慣病予防に関する協議会を開催し、関係機関と連携した啓発活動ができるよう協働の取組をすすめてきた。

関連する指標は、①にもあった「主食」「主菜」「副菜」とバランスよく食べることについて、あまり改善はなかったが、減塩に気を付けた取組は目標値を上回る改善がみられた。

ゆっくりよく噛んで食べることについては若干増加するにとどまった。

総括にあるとおり、体験型の取組は難しかったものの、健康講座や女性健診、ヘルスメイトの活動の

中で減塩について重点的に啓発したことにより一定の成果はあった。かむことについてはコロナ下でのマスクをした生活で、食事中は黙食の状況等から、ゆっくりかむことを意識づけることは十分出来ない状況であったのではないかと考える。

課題としては、妊娠期から行動変容につながる働きかけや、児童生徒の世代から噛むことの意識づけ、若い世代や働きざかり世代への啓発の強化、健康づくりの輪を広げていく体制を強化することで無関心層や情報の届きにくい層への啓発も必要。

資料 p33 ③低栄養を予防するための取組。低栄養は高齢者や若い女性において重要な課題。低栄養についての知識や理解、若い女性の栄養状態が次世代の健康につながることの啓発を行うとともに、高齢者の孤食が低栄養につながりやすいことから、食の機会をつうじた集いの場づくりを推進することとした。

取組状況は、低栄養がリスクとなる妊娠期での啓発をはじめ、次世代につながる小中学校での食の指導や保護者への周知、女性健診で「女性のやせ」の影響やバランスよく食べることの啓発、高齢期についてはヘルスメイトによる低栄養予防講習会の開催、低栄養予防の意識づくり等について冊子やチラシを活用した啓発活動、地域のいきいき百歳体操の場での低栄養プログラムなどを実施した。

関連する指標は「1日1回は誰かと一緒に食事をする市民の割合」は60-70歳代で若干減少。

総括にあるとおり、生活習慣病予防の取組などと同様に体験型の啓発活動が十分できない中でも、小中学校では学校の取組やお便りによる「低栄養予防」「若い女性のやせ」の影響などの保護者への周知、成人期は健康講座や女性健診、ヘルスメイトの活動などできる範囲での啓発活動を行った。しかしながら、特に高齢者においては普及啓発のツールとしてパンフレットを製作し、啓発に活用はできたものの、コロナの影響で啓発活動が計画通りには進めることができず、食の集いの場などの設定も難しい状況だった。

課題としては、若い女性の栄養状態が次世代につながることから、妊娠期にバランスよく食べることの行動変容につながる取組や、小中学生への朝食摂取の働きかけ、若い女性への栄養バランスの啓発強化、高齢者への啓発や食の機会を通じた集いの場づくりに取り組んでいく必要がある。

p34 ④歯と口の健康のための取組。歯と口の健康は食べることに欠かせないことから、歯と口を健康に保ち、子どもから高齢者までライフステージに応じた「かむ」「味わう」など食べ方を意識した取組が必要。その中で、子どもの口の発達に応じた食べ方の啓発、口の機能や口呼吸の改善のために幼児期・学童期を重点的に口の体操の普及、しっかりよく噛んで食べることが歯の健康や生活習慣病予防に関係することの啓発、かかりつけ歯科医をもつことの大切さの啓発などをライフステージに応じて啓発していくこととした。

取組状況は、母子保健事業での保護者への情報提供、園・学校では子どもを対象に高知学園短期大学や歯科衛生士会の協力による歯科保健指導、小中学校の教職員による指導などを行った。さらに、学校給食でカミカミ献立の実施、成人対象には健康講座や歯周病検診などを実施し、高齢者にはかみかみ百歳体操や口腔ケアの健康講座などを行った。また、昨年度は歯っぴいスマイルフェアを市歯科医師会と共同主催で食育をテーマに開催した。

関連する指標は、「ゆっくりよく噛んで食べる人の割合」は若干の増加。

小中学生の歯肉炎になっていない割合（昨年度の健診結果）は、小学5・6年生、中学生ともに若干改善。

総括にあるとおり、幼児健診や育児講座での保護者への助言に加え、園の職員対象の研修会で「子どもの口の発達に応じた食べ方について」をテーマに研修を行い、理解促進を図った。園や児童クラブで

の健康講座，学園短大学生による歯科保健指導では，口の体操である「あいうべ体操」の体験を行い，家庭で体操を実施している児童・生徒も増えている。小中学校ではカミカミ献立など「給食」を活用した噛むことの意識づけなどを行った。成人期以降はマスク生活による口の機能の衰えに着目し，噛むことの啓発にも取り組んだが，「ゆっくりよく噛んで食べること」の実践はまだまだ少ない状況。また，口の健康管理のための歯科受診をするきっかけづくりとして，成人歯周病検診の実施が，かかりつけ歯科医をもつことにつながっている。

課題としては，乳児期からの口腔機能の獲得，幼児期・学童期のかむこと・口呼吸などの口腔習癖改善のための取組強化や小中学生の歯肉炎予防，成人期からの歯周病の重度化予防，成人期以降もなんでもかんで食べられる歯・口を目指してオーラルフレイル予防の取組を強化していく必要がある。合わせて，マスク生活が長期化したことによる口腔機能の低下についての対応も子どもから高齢者まですべての世代において取り組んでいく必要がある。

p35 ⑤安全の食生活を送るための取組。食中毒予防に関する知識を取得し，自らの判断でより安全な食品を選択し，衛生的に扱うなど安全な食生活を送るために，手洗いの大切さを子どもたちからの衛生習慣として意識づけることや，食中毒予防の3原則の啓発などを行うこと。特に鶏肉の生食の危険性，焼き肉のトンガと箸の使い分けや加熱調理の徹底，カキなどの二枚貝の生食の危険性の啓発を行うこととした。

取組状況としては，園・学校での手洗い指導や食事前などの手洗いの徹底，学校給食を活用した食に関する指導やお便りを通じた保護者や地域への啓発，市民へは広報やホームページでの情報提供や消費者を対象とした食の安全に関するリスクコミュニケーションの開催，食品衛生月間行事などを実施した。

関連する指標の「食中毒予防のための正しい知識をもっている市民」は増加している。

総括にあるとおり，手洗い指導は安全な食生活を送る基本として園・学校などの生活の中で指導している。コロナの影響もあり，手洗いの徹底・習慣化を図ることができた。食中毒予防としては特に鶏肉の生食の危険性や焼き肉の加熱調理の徹底などの知識の普及を図り，市民の食中毒予防についての正しい知識を持っている人は増加している。しかしながら，加熱不十分な鶏肉料理による食中毒や有症相談は続いており，啓発が十分とは言えない現状である。

課題としては，園や学校での手洗いの定着には継続した指導が必要であり，アフターコロナの対応としても大切。また2次汚染対策についての啓発やノロウイルス対策についてカキなどの2枚貝の生食の危険性の他，食品を扱う人の健康状態や手洗いの重要性について継続した普及啓発が必要。

p36 ⑥災害に備えるための取組。南海トラフ地震や風水害などに備え，災害に直面しても生き抜く力を日頃から身につける取組として，備蓄の必要性，飲料だけでなく主食・副食などの備えが充実するような備蓄食の内容，子どもたちから災害に備える知識や理解を深めるための啓発を行うこととした。

取組状況としては，園では備蓄食を確保し給食で提供，学校では教科や総合的な学習の時間，特別活動などでの食の指導や防災給食の実施，保護者や地域へはお便りを通じた情報提供を行い，市民へは「災害時の備え」のリーフレットや家庭内備蓄のチラシを活用し，地域の防災会や健康講座などの中で啓発を行った。

関連する指標として，「災害時の食の備えを実践している市民の割合」は増加しており，目標値までは達していないが改善している。

総括にあるように，園での備蓄食を活用した給食，学校での防災の日に合わせて防災給食など，災害時の食について考え，実際の提供方法や味に慣れるなどの取組を行い，災害時に備えた体験を行った。地域の健康講座では，コロナの自宅療養者の食糧支援をきっかけに1週間分の家庭内備蓄についてのチ

ラシを作成し、情報提供。市民の食の備えは増加し、備蓄内容も飲料のみでなく、主食などの食べ物の備えも増加。また、食のボランティアであるヘルスメイトの活動では、災害時の食に関する研修を追加の取組として行い、災害時への対応への意識づけにつながっている。

課題としては、これからの時代を担う児童生徒の災害時の食に関する意識の向上や、災害時にも栄養管理ができるよう備蓄の内容や日頃からの健康管理についての啓発強化、家庭内備蓄割合の増加や内容の充実、災害時を想定した実践での調理実習が必要。

【質疑応答】

〈渡邊会長〉

事務局から第3次高知市食育推進計画総括の（1）健康なところと身体のための食育についての取組の説明がありましたが質問、ご意見はございませんでしょうか。

高知市が取り組んできたことのご報告でしたが、食育は行政だけではなく関係者がそれぞれの立場で取り組むことが大切だと思います。委員のみなさまも、この健康に関する食の取組としてこの5年間で取り組まれたことがありましたらご発言お願いしたいのですが、何かございませんか。

学校や園での取組の内容についてたくさん出てきましたが、現場の委員さんからの意見はいかがでしょうか。

学校については藤田委員さん何かありませんでしょうか。

〈藤田委員〉

学校現場の方でも本当に、高知市の学校給食、地産地消で安全でおいしい給食をいつも提供していただいています。

なかなか、それぞれの家庭の中で地産地消だとか高知の食材で栄養があるものを食べるのが難しいご家庭のお子さんも実際のところたくさんおります。

その中で、給食の放送を聞きながら、高知の食材や高知のおいしいもの、時々「高知の食べものいっぱいはいっちょ日」という日が給食にあります。そのときには、高知の食材について放送があって、それを聞きながら食事をします。子供たちは美味しくて、たくさん食べていると思います。本当に残食が少ないような状況です。

学校というところが、今すごく食事だとか、子供の身体の成長とかっていうところに、大切な役割を果たしていると感じています。それに対して学校給食っていうところで、大変工夫をした食材や料理を提供していただいて、私たちもすごく安心して給食指導ができているところです。

また、口腔指導についても、毎年うちの学校にも来ていただいています。うちの学校は小規模校ですので、歯磨きも食事後に必ずしたり、週2回フッ素洗口したりしていますが、生活習慣病であるだとか、塩分の取り過ぎだとか、小さい子供たちに言葉で言っても難しいところですが、そのところ歯磨きをするだとか、それから食事を実際に食べながら、知識得ていったとか、そういう部分では非常に高知市の給食や口腔指導は、現場からすると大変ありがたい取組をたくさんしていただけるように私は思っています。いつも感謝をしているところです。

〈渡邊会長〉

藤田委員ありがとうございました。

高知の食材いっぱいはいっちょってすごく興味があるんですけど、いくつか入ったメニューがあるのでしょいか。

<藤田委員>

ほんとにいっぱい入ってしまっていて、私より作っている栄養士さんのほうが詳しいかと思いますが、地産地消と高知の野菜、トマトだとかいろんな野菜が入っていたり、お魚が入っていたりして、ひとつひとつに説明がついていて、それを子どもが放送で流してくれるんですね。

あと、食べたことのないものもたくさんありまして、学校給食で初めて食べるお子さんも多かったですりして、すごく良い食育になっているのではないかと思います。子どもたちもその日が大好きです。本当にその日を一番楽しみにしているのではないかなと見てて思います。

<渡邊会長>

ありがとうございました。

保育では水口委員、何かございませんでしょうか。

<水口委員>

保育園で用意する食材もできるだけ地産地消には気を使っています。お米は地元の農家さんが作っている低農薬のお米を使わせてもらっていて、食の安全という部分でいうとできるだけ無農薬にできたらいいですけど、なかなか難しいのが現状です。野菜については仕入れの都合上、地産地消のものばかりにできないメニューを今後どういうふうに改善していくか、メニューの作り直しとかも検討しながらやっているところです。

うちの保育園は毎日フッ素洗口をしまして、むし歯がここ何年かでかなり減りました。これもやっぱりフッ素洗口のおかげで、やっている意味があったのかと思っています。

<渡邊会長>

ありがとうございました。

小学校とか保育園とかそういうところで地産地消の意識づけというか高知の食材の意識づけが高まっているということですね。

先ほど、歯と口の健康というところがありました。歯と口の健康のなかに噛むことについての意識づけなどがありましたけども、田岡委員いかがでしょうか。

<田岡委員>

我々歯科医師会が食育ということに特化した何かをすることはないんですけども、報告でもありましたように歯っぴいスマイルフェアのような市民に対する啓発活動を行ったり、毎年できるかぎり、コロナでできなかった年もありましたが、今後もできるかぎりやっていきたいと思っています。

我々現場で仕事している人間としては、マスクの影響というのはめちゃくちゃ大きいと…子どもだけではなく成人でもですが、影響は大きいと思っていますので、そういうことの改善や口腔機能の改善とかそういうことを今後患者さんを通じて、会を通じて、行政さんとも一緒にやっていきたいと思っています。

<渡邊会長>

はい、ありがとうございました。

近森委員、そのほかのご家庭ではいかがでしょうか。

<近森委員>

小学校や中学校、私の子どもは中学生ですが、ずっと朝食への意識づけというのは各学校でもやっていますし、保育園や幼稚園からずっとやっていることなんですけど、やはり現役世代から話を聞くかぎりでは、早くに出勤してしまうご家庭も多いですし、子どもたちがなかなか起きてこないだとか、現場でも家庭でも生活習慣がどんどん夜型になっていくことによって、朝ってということが難しくなっているっていうのは事実です。

特にコロナ禍になってはそういった生活バランスが崩れたということによって難しくなっているという声もたくさん聞きます。ただ地域とのつながりでそういうのを改善してくださっているっていう心強い地域の方々やヘルスマイトさんたちもそうなんですけど、みなさんいろいろな仕方で少しずつ改善をさせてもらっているところもあるとは思いますがなかなか若い世代の方には難しい課題かなっていうのはあります。

ずっと難しい課題ではあるとは思いますが、それをどうやって意識して若い世代の方もそうですし、当然これからどんどん年齢がいてもなかなか…また、今、中年層の私たちもなかなか朝食が摂れないという世代になってきてしまっているのでもう少し朝食の大事さっていうのが世代にきちんとしたかたちで情報として広げていける、もっとこう具体的な対策っていうのがあったらいいんじゃないかなと思ったりもします。

<渡邊会長>

ありがとうございました。

朝食を食べるっていうのはそれぞれ家庭の事情があったりして難しいところもあるかと思えますけれども、今の若い世代の方たちに働きかけということで、基本的な生活習慣とか低栄養とかそういったところも考えていかないとと思えます。

新谷委員、栄養士の日頃の活動とかヘルスマイトさんの活動とかではどういうご意見がございますでしょうか。

<新谷委員>

高知県栄養士会では、食と栄養を通じて高知県民の健康づくりを応援するための取組を主な事業として日々活動しています。栄養ケアステーションを通じて、乳幼児から高齢者まですべてのライフステージにおいて、それぞれのイベントに出向き、栄養相談員として派出し啓発しています。

先程、高知市からいろんな取組状況を報告いただきましたけれども、市町村の保健事業の中でも講演講師や調理実習、料理教室などを行ったりしています。

高齢者の低栄養というところでは、市町村の地域ケア会議に栄養の専門職として助言者という立場で参加し、啓発しています。

あとは特定保健指導受託機関になっていますので、特定保健指導の時に対象者に応じた相談にのっています。

今、災害の話が出ていましたけれども、災害に関しましては、防災イベントがいろんなところでありますので、積極的に参加し、実際の災害の時にどうするのか。パッククッキングを紹介し、実際に作ったものを皆様に試食もしてもらい、喜んでいただいています。このようなかたちで啓発しています。

<渡邊会長>

ありがとうございます。

高齢者の低栄養等、地域でいろんな啓発活動をされています西森委員どうでしょうか。

<西森委員>

食と健康を学ぶ会の西森です。

やっぱりコロナの影響で今までのように地域に出てないし、地域の高齢者も集まれないということできずずっと停滞していました。

私たち NPO は、活動として、リハビリキッチンっていう高齢者が自分たちでバランスの良い食品をとって地域の見守り活動をし、仲良くして一緒に食べて触れ合うというような、そういう地域をつくるためにサポートすることをしています。

高知市でも何箇所かそういうリハビリキッチン、自分たちで食材を買ってきて料理を作ってみんなで勉強しながら食べるっていうことをやってきたんですけども、本当に集まれない状況だったので、どうしたらいいんだろうかという状況が続いていました。でもまあ、おかげで落ち着いてこれから活動ができると思うんですけど、やはりこのコロナの間でずいぶん健康とか食育に関心を持っていた方がしぼんだというか。それをこれからどういうふうにサポートしていくか、高齢者の方も低栄養にならない活動を NPO として続けたいと思っています。

私たちはそんなかたちでコロナで活動が停滞していたところなんですけれども、今日のこの食育の現状の発表を聞かせていただきましたら、みなさんで食育ということ呼びかけて、アンケートもしていくことで意識を高めていくということで、改善があると思うんですよ。ずいぶん良くなってると思うんです。一番やっぱり見てわかるところがやはり問題だと思うんですけど、またこれからですね。ヘルスマイトさんもそうですけど地域に出て行って活動できるようになりますので、これからそういう形でサポートしていきたいと思っています。

<渡邊会長>

ありがとうございました。

女性健診とかね、学生さんの働きかけとかそういうところで浜渦委員、何かありませんでしょうか。

<浜渦委員>

ヘルスマイトの浜渦と申します。

ヘルスマイトは資料にありますように4つのことに関わっております。

自分たちにできる啓発を進めて市民のみなさんに元気で過ごしていただきたいという思いです。できるだけいろんな場面に参加させていただいて啓発をこれからも続けていきたいと思っています。

高齢期の低栄養では、低栄養のための食事ということだけではなくて、オーラルフレイルにも少し関心を持って、オーラルフレイル予防をやっています。今までは低栄養予防のための食事で行ってききましたが、食事だけでなく身体のほうにも気を付けてできるだけ一緒に進めていけるように、ヘルスマイトもこれからいろいろな学習をしながら身体や運動の面でも一緒に勉強させていただいて、地域に広めていきたいと思っています。

<渡邊会長>

ありがとうございました。

そのほかの委員さん何かありませんでしょうか。

田村委員どうでしょうか。

<田村委員>

サンプラザの田村です。

量販店なのでこの5年間でやっていることという、主食・主菜・副菜のバランスの良い食事は毎月1回折り込みチラシで提案させていただいています。

また、減塩についても減塩メニューも併せて提案させていただいて減塩に対する啓発もさせていただいていると思います。

また、高知の伝統的な食材や料理に関しても、うちは惣菜センターがありますので「高知のおかず」と題しまして、イタドリの炒め煮といった高知の食材でオリジナル料理の提供もさせていただいてます。

食品ロスに関しましては、高知のメーカーさんに高知の食材を中心に買ってもらおうという支援の寄付もさせてもらって、高知食支援ネットさんとか、少し困窮しているところの支援に移行させてもらってます。

今スーパーマーケット業界全体でどういうことが起きているかというと、値上げが今年も予定されて基本的には一品単価が値上げの影響で上がってるんですけど、買い上げ点数がみなさん10個買ってたのが9個になったり、買い上げ点数が下がっています。それはスーパーマーケット全体に言えることで、みなさんなかなかそういった意味ではバランスの良い食事だとか朝食減らしたりだとか、一品おかずが減ったりだとかが生活防衛で現れてきているのかと思います、心配しております。

<渡邊会長>

はい。ありがとうございました。

食材の高騰というところは実際に影響があると思います。私も卵が高くなって普段やったらいっぱい使っていたところをちょっと遠慮しようかなというようなちょっと引いた感じになっております。

いろんな食材については坂本委員、どうでしょうか。

<坂本委員>

今日もそうですけれど、先ほどから言われている食育についてはですね、高知市農協も十数年来からずっと高知の給食に高知の食材を提供させていただいています。

食育としても、イタドリとか四方竹、土佐山のゆず、介良いちごジャム、お米も数年ずっと供給させていただいてたんですが、落札することができず、今では米粉を供給させていただいています。

最近はどうしても先ほども言われていたとおり商品の高騰等の話がありました。例えば米粉に関してはですね、高知市で栽培されたお米を嶺北の米粉工場加工して米粉にもらったものを使ってパンを作るのですが、どうしても加工するので経費がかかります。そうするとどうしてもその原価の価格、加工に対する費用というのが、電気代にしろ輸送費にしろかかってきます。その点について学校給食会さんに申し訳ないですが転嫁させてくださいという話をしたんですが、それならば学校給食で使用できないという話がありました。

もう一つ介良のいちごジャムを使っているんですけど、ジャムを作るのにも手がかかっています。ヘタを取って洗って嶺北の工場に持って行って、費用がかかるのでジャム自体の価格を上げさせていただきますと学校給食会さんにお話しをしたんですけど、それならばやっぱりジャム自体の取り扱いができないかもしれませんというお話をいただきました。私と販売担当それぞれの担当で学校給食会の局長に話をし、実際農家さんが少しでも安く学校給食で子どもたちに提供したいということで、一反あたり100kgを無償提供しているということをお伝えしました。実際価格が上がったのは農家さんからの納入の金額ではなく、加工する費用が上がったところで単価が上がったことを説明させていただきました。米粉についてもそうです。最終のところは、給食会さんがうちのその量を受けてくれました。

実際に局長さんとお話しをすると、子どもたちは米粉パンがもちもちしておいしいと。それをまた高知市で作った米粉パンだと言うとすごく喜んでくれる。ジャムも高知市の介良で作ったジャムというとさらに喜ぶ。

話をするとやはり給食は安いものばかり、雑なものばかり使うと茶色くなるので子どもたちも楽しくない。

そういったこともあるし高知市で作られた食材で食の教育を学んでいただきたいし、介良ではジャムを作るという体験をするときにはハウスに子どもたちを招いてジャムづくりをするということもしています。

農協の中でも青壮年部があるんですけども、食材を提供する前には野菜の作り方を子どもたちに体験してもらうこともしているので、ある一定以上、学校給食会にも予算をつけていかないと子どもたちの食の教育が非常に難しくなっていくと思います。農家さんも安価に提供するには限界がきています。

国は子どもを産むための施策がほとんどですが、子どもたちの未来のために、教育が大事だと思いますのでそこを国も県も各市町村に対して給食の費用ということを考えていかないかんと思っています。

また子どもを育てる親というのも給食費を払わないという話もききます。その問題点もこれからは見過ごしてはだめだと感じております。

<渡邊会長>

ありがとうございます。

グルテンフリーという考え方も最近はありますし、その点でも米粉は入ってきていると思うんですけども、あとでまたご意見ありましたら委員さんにはご意見お伺いしたいと思います。

それでは、つづきまして(2)豊かな食を実践するための食育について(4項目)について事務局説明をお願いいたします。

② 第3次食育推進計画総括について

(2) 豊かな食を実践するための食育の4つの項目について

資料(p31~36)、概要版を用いて事務局が説明。

<事務局説明>

資料 p37 ①環境を大切に作る取組。食に対する感謝の念を育み、食べ物を大切にすることが環境を大切にすることにつながることから、食品ロスの削減に関する啓発活動や食品リサイクルを推進することとした。

取組状況としては、園や学校では給食の食べ残しの少ないような取組や教科などでの学習、保護者へのお便りを通じた周知などを行った。また、総合的な学習の時間などを活用し、食品ロスをテーマとした環境学習やゴミの出前授業を実施。飲食店にむけては「食べきり協力店登録制度」や忘年会・新年会はおいしく残さず食べきろう全国共同キャンペーンの実施、市民へは食品ロスの理解促進のためのパネル展やイベントなどを実施。

関連する指標は、食品ロス削減のために何らかの行動をしている市民の割合は99%と高く、食品ロスを認識して行動している人も95.9%。

総括にあるとおり、日頃の給食を通じて「残さず食べる」「好き嫌いをなく食べる」ことを伝えることや食品ロスをテーマとした環境学習などで児童への意識づけにつながっている。市民の食品ロスに関する高い意識は維持。

課題としては、園や学校では給食の残食を減らすための指導を継続した実施が必要。また、ごみ排出量を減らすためには「食品ロス」の削減についても市民や事業者の更なる取組や、情報発信、環境教育等の活動を引き続き行う必要がある。

P38 ②高知の食（食材・食文化）を大切にするための取組。高知ならではの食材・郷土料理など高知の食文化に理解を深めるとともに、食事の作法や日本ならではの食文化などを次世代へ伝承・継承すること、地元客の街路市への呼び戻しと掘り起こし、地産地消のための直販所の活動支援、保育所・学校などでの地場製品の活用、給食に高知ならではの食材や郷土料理を取り入れ子どもたちに高知の食のよさ、豊かさを伝えていくこととした。

取組状況は、地域食材や地場製品を取り入れた給食や保護者への地域食材の紹介、食の指導の中で高知の食の紹介、食育実践発表会や親子料理教室の開催、ヘルスメイトによる郷土料理講習会、農林体験学習、街路市活性化事業や地元客むけのリーフレットの配布、小学校での街路市文化の伝承、高校・大学などの街路市での活動協力などを実施。

関連する指標は、高知の食を豊かだと思ふ市民の割合は増加。

「高知ならではの料理や食材を食べたことがある小中学生」は小学生で若干減少、中学生では微増。高知の食を次世代に伝えていくことが大切だと思ふ市民はほぼ横ばい。地域の人や家族と高知の食を楽しむ人はどの世代も増加。

総括にあるとおり、園や学校では、給食を中心に高知の食や食事の作法・伝統食などの体験を通じて子ども達に伝え、保護者へはお便りで紹介。料理教室などは一部見送ることもあったが、感染対策をとりながら体験事業や食育事業を行い、子どもたちに高知の豊かな食を伝えることができた。コロナにより、学校給食に地元食材を活用する機会もあった。また、街路市では園や学校の課外学習で出店者とふれあい、街路市を身近に感じる事が、地元の食文化を学ぶ機会となっている。

課題としては、食糧費も高騰していることから保育所給食で地場製品の活用を優先することは難しい状況。食文化等を伝承する担い手の確保、伝承するための体制づくりの強化や農業体験を行う場所や協力していただける指導者や農業者の確保が難しいとの声もある。

p39 ③農林漁業への理解を深めるための取組。高知市で生産されている農林水産物を理解し、農林漁業体験の機会等を通じて食に関する関心や理解促進を図るために体験学習や学童農園の取組の支援、イベントや体験学習を通じて生産者や消費者の交流を促す取組の支援、栽培活動を通じ農作物への興味や関心を育てることとした。

取組状況としては、園や学校での栽培活動、食育講演会の開催、農業体験学習事業や魚食普及事業での体験学習、有機市民農園など市民への場の提供、学校給食畜産物提供事業などを実施。

関連する指標は、高知の食を豊かだと思ふ市民の割合は増加。

総括としては、園では身近な野菜の栽培活動などを通じて興味を深め、学校では食育・地場製品活用事業による食育体験活動の実施が増加。また、各学校では地域と連携した栽培体験学習を実施。体験活動では一部中止となったものもあったが、感染対策をとりながら取組を継続。農業や水産業の体験学習では、子ども達に高知の農畜水産物を伝え、農業や漁業への関心を深めてもらう機会となった。また、コロナの影響をうけた事業者支援として児童生徒に県産食材への理解を深めるための活動を実施。

課題としては、今後も児童生徒の栽培活動を含む農林漁業への興味関心を高めることや、前ページ同様、農地や農業者が少ない地域の小学校では、農業体験を行う場所や協力していただける指導者や農業者の確保が難しいとの声がある。

p40 ④人の輪をつなげるための取組。ひとりひとりの食育の取組を大事にし、地域や関係者は多様に連携・協働し合って、充実した食育活動を展開するために、「こうちし食育やるぞねっと」による連携・協働の活性化をすすめることや、地域の伝統行事など地域文化に触れる体験や学習などの事業の企画検討、コミュニケーションや豊かな食体験にもつながる共食の機会の仕組みづくりをすすめることとした。

取組状況ですが、高知学園短大と市教委、市保健所が連携した小中学校での歯科保健活動の実施、学校給食を通じた共食の機会、地域人材と協働した食育体験学習、地域の食材や旬の食材を使った公民館での料理教室や世界各国の料理を学べる教室の開講、地域の伝統行事や食文化に触れる世代間で交流した体験、地域での食を通じたイベントや子ども食堂などの地域の食の集いの場での世代間交流の推進、食育推進委員会を構成する課による情報発信、「こうちし食育やるぞねっと」登録団体による食育活動などを行った。

関係する指標は、食育の取組をしている市民の割合は96.8%で若干減少。高知のならではの食を次世代に伝えていくことが大切だと思う市民はほぼ横ばい。地域の人や家族と高知の食を楽しむ人はどの世代も増加。「こうちし食育やるぞねっと」の登録団体は現在14団体。

総括にあるように、「こうちし食育やるぞねっと」を活用した連携・協働した取組としては市役所食堂「せんだんの木」とヘルスメイト、高知学園大などが連携した活動を実施。食の体験学習では地域人材とのつながりをもつことができ、地域においてはコロナの中でも食を通じての地域コミュニティの推進や世代間交流のアプローチができた。一方、コロナ感染拡大の影響で高齢者の食の集いの場をすすめていくことは難しく、子ども食堂などの取組も制限があり、学校給食では給食の時間を共有することが出来ない状況だった。

課題として、コロナの影響で長期間活動の休止により、以前のような地域での活動が難しくなっている現状ではあるが、市民の多様化したライフスタイルに合わせた内容の工夫、地域での共食は高齢期だけでなく、幅広い世代の住民主体の食の集いの場として、子ども食堂や通所型サービスB事業などで多世代の食の集いの場づくりをすすめていく必要がある。また、いきいき百歳体操会場での茶話会や食事会なども感染対策をとりながら再開できるように支援が必要。さらに、関係団体の連携・協働においては「こうちし食育やるぞねっと」の登録団体の増加や登録団体同士や登録団体と連携・協働した活動や情報発信の強化が必要。

【質疑応答】

〈渡邊会長〉

みなさんからご質問、ご意見はありませんでしょうか。

高知の食を大切にする取組や農林水産漁業への理解などの項目でしたが、食文化の継承というところで三谷委員いかがでしょうか。

〈三谷委員〉

アンケートの中間報告などをお聞きしまして、コロナで大変な状況にも関わらず数値が少しでも上がっているとうのは救われました。ただ、家にいる時間が長いからといって朝食の摂取率が伸びたかという伸びていない。

また、高知ならではの料理・食材を食べたことがある小学生は少し下がっている。数字を厳密に見るとそんなことはないのかもしれませんが、こういったことを考えると家庭内の食育は本当に難しいし限界がきている。どうやって朝ごはんを食べさせるかというのは、ずっと私も関わってきて正直すごく疲れています。だけでも誰かが言い続けてやり続けたいといけないというのを今日本当にしみじ

みと感じております。

食文化のほうも、高知のことを教えるっていうのは子どもたちの人生にとって本当に大事だと思っています。食は基本なので。ですがさっきも言った通り、家でというのは限度があります。ですからいろんな団体の名前が出てきましたので、私自身も含めてみんなでどうやって子どもたちを救っていくか、子どもたちが幸せだと高齢者も元気になるんです。きっかけ作りをいろいろ考えて実際に実効性のある計画を作りたいと思います。

<西森委員>

先ほどの発言も聞かせていただいて、コロナで集まれる場所がなくて食育も落ち込んでいたのにも関わらず、幼稚園とか小学校では意識が伸びてきていますよね。数字で見ても。やっぱりやり続けることが大事だと思うんですね。いろいろあってもやり続けて各団体で協力して食育を進めていくことによって健康が生まれて食育っていうのが生きてくるんじゃないかと思います。難しいんですけどね。

私がさっき発言させていただいたのも、コロナ過で活動を休止させていただいたことで元気だった人がやっぱりちょっと元気でなくなったりしてるんですけど、これからずいぶん変わってくると思います。

アンケートもまだ中間ですので変わってくると思いますので、皆さんの協力が大事だなと思いました。

<渡邊会長>

ありがとうございました。

古谷委員、人の輪をつなげる取組はどうでしょうか。

<古谷委員>

高知市社協 古谷です。

本当に先ほどのお話も聞きながら高知市社協としても協力ができるのか、どういう機関と協力ができるのか改めて考えていきたいと思いました。

地域の状況といたしましては、赤い羽根の共同募金の事務局をさせていただいてるんですけど、みなさんからいただいた共同募金の助成金を活用して、例えば孤食に関してコミュニティカフェをやりたいのでキッチンスペースを整備することに使っていたり、子ども食堂さんも食堂だけではなくて、食育のところに関心を寄せて助成金を活用して畑を借り上げて子供たちと一緒に作物を育ててそれを食べるっていうようなことに使っていたりしています。

また、一緒に料理をするっていうことに子ども食堂さんがチャレンジしているっていうなど、みなさんからいただいた共同募金で応援しているということがあったりしています。子ども食堂はやっぱり増えているという状況にあります。

ただ、地域の活動としては敬老会があったんですけど、まだ再開を見合わせている地域さんもあったりするのでそこはこれからかなということと、新しいかたちでどんなふうにできるのかっていうところは各地域が模索しているという状況かなと思っていたりします。ただその中で男の料理教室とか男性陣が退職してから朝食づくりは自分がまかされているからそのメニューを広げていきたいということで、スムージーとかを皆さんが一生懸命作りながら朝食づくりの勉強会を開いていたりとか、難病の方が料理教室を中学生のところでされたりだとか、食を通じての地域活動があって皆さん関心を寄せているし、早くみんなと一緒に前みたいにご飯食べたいだとかいう声はいただいたりしているので、応援したいというふうに思っています。

<渡邊会長>

ありがとうございました。

私の大学では地域医療概論という授業があります。4年生が講義を受けてフィールドワークということでこれからいろいろ見ていくんですけれども、リハビリキッチンの方にうちの学生が行って、一緒に食事を作ったり、計測をしたりという科目になっているのですが、そういうところで若い世代が低栄養の予防に関わっていくことも一つの効果が出るのではないかと考えています。

そのほか委員さんのほうで何かご意見はございませんでしょうか。

なにかこういった食文化を継承するということところで田村委員どうでしょうか。

<田村委員>

スーパーでは水産をやる人がいなくなっていることがあって、うちではお魚のさばき方教室を今年やってみようかと思っていて、先ほど男性の料理教室の話も出ていたんですけど、男性に料理をしてもらうことはスーパーマーケットも嬉しくて。あまり値段気にしないし、こだわっていただくので良い食材とか調味料をかっていただける機会が増えるのかなと思って、協力できることがあればどんどん協力していきたいです。旦那さんをスーパーに連れてきてもらうと、奥さんが買わないものまで買っていただけるのでそういう機会は増やしていきたいと思っています。小さいお子さんも連れて来てもらって。そういう場にスーパーマーケットもなれば良いと思っているので、何かまたご提案があれば協力していきたいと思っていますのでよろしくお願いします。

<渡邊会長>

ありがとうございました。

浜渦委員もいろんな団体さんをつながり、取組があったと思いますけれどもこの件についてなにかありますでしょうか。

<浜渦委員>

私たちは毎年学校訪問をしています。この何年かはコロナのためにできていないときもありましたけど、学校長会に行き、地域のヘルスマイトが学校に訪問していきますのでよろしくお願いしますとお願いをしました。各地区でも学校を訪問したわけですけど、快く受け入れてくださったり、以前はなかなか校長室に入れてもらえないということもあり、学校の玄関でお話をして帰ってくるということもありましたけど、最近は和やかにやらせてもらってます。

その中でコロナの時にはなかなか学校での取組はできなかつたですけど、今年は良い感じで進めれるなあと。小学校では朝ごはんを食べようという目的で取り組んで、もう何校かはやってくれるようになってます。小学校中学校だけでなく今年は初めて高校のほうでも取組をしてくださる高校ができましたので大変嬉しく思っております。

大学では学園大学さんが受け入れてくださって、学校関係でも取組が多くなってきておりますので、自分たちも啓発がやりやすくなりました。

子どもたちのために自分たちができることをしていこうということで、第四小学校に行きました。調理実習は難しかったですけど、家庭科の先生がお休みということがほかの先生が担当の中でやらせてもらったんですけど、本当に子どもたちが喜んで、また来てねって声をかけてもらいました。学校との関わりが良くなっています。

<渡邊会長>

ありがとうございました。

たくさんご意見ありがとうございました。みなさまからのご意見を踏まえて第3次計画の総括とし、内容を踏まえて第4次計画に反映させていただければと思います。

では、③第4次高知市食育推進計画の方向性・骨子について事務局より説明をお願いします。

③ 第4次高知市食育推進計画の方向性・骨子について

資料 p41, 概要版を用いて事務局が説明。

<事務局説明>

基本理念は引き継いで、食とひとがつながり輝く元気なまち

スローガンは、3次では「豊かな食 おいしくいただき みんなあ こじゃんと 元気」

1次では「みんなあ」がなく「豊かな食 おいしく いただき こじゃんと 元気」であったものに、2次計画策定時に、共食の考えが加わったことから「みんなあ」という表現を追加。3次では2次のスローガンをそのまま引き継いでいるもの。

食育推進の3つの視点「えらぶ」「はぐくむ」「つなぐ」は1次計画から。これは、食育基本法の前文の、食育とは、「生きる上での基本であって、知育・徳育・体育の基礎となるべきもの」、「様々な経験を通じて『食』に関する知識と『食』を選択する力とし、健全な食生活を実践する力を習得し、健全な食生活を実践できる人間を育てること」と位置付けられていることを受けて「えらぶ」「はぐくむ」「つなぐ」の3つの視点で取り組むこととした。

これらを踏まえて、基本理念と3つの視点はそのまま引き継ぎ、説明文の中でデジタル化やSDGsは盛りこみ、スローガンについては今までの流れを汲みながら、新しい視点があればご意見をいただきたい。

【質疑応答】

<渡邊会長>

ただいま、事務局から第四次高知市食育推進計画の基本理念や食育推進の視点について説明がありました。

基本理念や食育の3つの視点は3次までの計画を引き継いで、3つの視点の説明の中でSDGsやデジタル化の要素の説明の中に盛り込んでいくとのことでしたが、いかがでしょうか？

三谷委員さんが「みんなあで」というのを先ほどおっしゃてましたけど、スローガンに入ってますので私もこれ気に入っているんですけども。

また、スローガンにつきましてもいままでの流れを踏まえて大幅には変えず、盛り込む要素などがあれば反映させてはとのことでしたが、いかがでしょうか。

スローガンにつきましては、計画に素案などの検討の中でも、修正ができるとのことですので、次回以降でもご意見があればよろしくお願ひいたします。

どうでしょうか。坂本委員。

<坂本委員>

土佐弁で親しみやすいスローガンでいいんじゃないでしょうか。

<渡邊会長>

SDGsのところではなにかご意見はございませんでしょうか。

それでは、次回以降でもご意見があればよろしくお願ひいたします。
では、議事（3）その他について、事務局より説明お願ひします。

（3）その他

資料 p42 を用いて事務局が説明。

〈渡邊会長〉

本日の予定は以上で終了です。
それでは、進行を事務局にお返しいたします。

5 閉会